

ウォークラリー

1 活動の概要

ネイパルあしよろの裏手の「出会いの森」などをフィールドに、グループ毎に「地図」と「問題」を読みながら、ルートを探して進んでいく課題解決ゲームです。コースは地図を読み取りチェックポイントを見つけながら、ゴールを目指します。いずれのコースもグループ毎に時間差スタートを切ります。活動のねらいや団体の規模等によってコースと全体の所要時間を設定します。

2 ねらいとして考えられるもの

(1) グループワークをとおして人間関係を育む。

◎グループのあり方

◎グループに対する個人の関わり方

◎協力することやリーダーシップについて

(2) 自然体験やアクティビティをとおして、自然と親しむ。

※時間得点と課題得点を合計して順位を決めることもできますが、必ずしも「早くゴールすることに重点をおいている」活動とは考えていません。団体毎のねらい（ゆっくりと楽しみながら自然散策をしたい…など）に合わせて判断する必要があります。

3 活動時期

4月中旬～10月

4 活動場所

ネイパルあしよろ周辺。

(出会いの森、ひょうたん池、里見が丘キャンプ場、展望台、親水広場など)

※ひょうたん池については、活動環境の状態を事前にネイパル職員に確認してください。

5 活動人数

何人でも可能。

(※ただし、時間設定、指導・引率者の人数により実施が難しい可能性もあり。)

6 所要時間

団体の希望する時間によって調整可能。

(※1：ただし、参加人数により実施が難しい可能性もあり。)

(※2：安全面を考慮して余裕を持ったプログラム展開の時間が必要。)

7 指導依頼について（説明、活動の補助について）

- (1) 基本的には、引率または団体指導者の方に直接指導していただきます。事前打合せに来所した際にコース作成手順について、ネイパル職員が引率または指導者の方に指導します。
- (2) どうしても団体で指導できない場合は、ネイパル職員が指導しますが、他の利用団体の活動状況やネイパル職員の勤務の関係上、全ての指導依頼に答えられない場合があります。
- (3) 指導依頼をした場合でも、全ておまかせの状態にならないよう、参加者の掌握や安全管理について指導補助をお願いします。

8 団体が準備するもの

(1) 参加者

- 野外での活動に適した服装（長袖、長ズボンが望ましい） 帽子
- 天候によって雨具・長靴 汗ふきタオル 時計
- リュック（軽装備できるように） 筆記用具 飲み物

(2) 引率者

- 救急用品 時計 指導者用地図（引率者配置図）
- 生徒用の問題と地図

※ネイパルでのコピーはいたしかねますので、事前にご用意下さい。ラミネートされた地図は希望により 20 部程度貸出し可能です。

- 緊急車両

9 ネイパルで貸し出しできるもの

※以下の物は、担当者と事前の打合せが必要です。

- バインダー（数に限りあり最大 20 程度） ラミネートされた地図
- トランシーバー 7 台（電池は団体で用意。1 台に必要な電池の数…単 3 電池 3 本）
- 熊鈴（最大 7 つ程度）

10 活動にかかわって

(1) 実施までの流れ

《事前》

- ① 事前打ち合わせに来所した際、ネイパル職員と打合せ
（コース設定、安全管理について、貸出物の有無など）
- ② コースの下見（実施到査）
- ③ 実地到査をもとに、引率・指導者間での準備、ネイパル職員との打合せ

《当日》

- ① 実施可能かどうか、引率者間で協議する。
（実施について判断が困難な場合は、ネイパル職員に相談してください。）
- ② 実施（中止の場合は、別プログラム）

(2) 実施上の留意点

- ①指導者は必ずコースの下見（事前踏査）を行い、ねらいに合った活動を安全に行えるようにネイパル職員と十分な打合せを行きましょう。
 - ②引率者間でも、十分な打合せを行きましょう。
 - ③自然を大切に^{する面}での事前の指導をしましょう。
 - ・動植物の採取はしない。
 - ・ゴミはすべて持ち帰る。
 - ④安全な活動をするための事前の指導をしましょう。
 - ・車道を横断する場合には、十分注意する。
 - ・常にグループで行動することを原則とし、万が一ケガ人が出た場合には、ケガをした本人に1人以上が付き添いで待機し、他のメンバーが指導者に連絡をしに行く。
 - ・道に迷った場合は引き返すことが原則。
- ※ハチが近づいてきたら、絶対にこちらから攻撃（振りはらうなど）せず、速やかにその場を立ち去る。（※黒色に反応するので服装は黒色を避ける）
- ※ハチやハチの巣を発見した場合は、必ず指導者に連絡する。
（指導者は事務室へ連絡してください）
- ※ダニが衣服や身体についていないか、活動中も活動後もチェックする。
- ※ダニに刺された場合は、速やかに指導者に連絡する。（ダニの種類によっては身体に影響がでる危険なダニもいますので、必ず報告を徹底して下さい。）指導者は事務室へ必ず連絡してください。

(3) 荒天時の対応

実施可能（台風といった豪雨は危険）ですが、雨具、長靴の装備が必要です。実施の判断は引率者が行います。（※実施について判断が困難な場合は、ネイパル職員に相談してください。）

(4) 引率者配置の例

基本的には、指導者用資料のチェックポイント、間違えやすいポイントを参考に、スタート・ゴールを含めた引率者の配置を考えてください。全てのチェックポイントに引率者を配置する必要はありません。事前踏査（下見）を経て、団体で話し合いを行い、配置箇所を決定してください。

(5) 展開例

◎ねらい

グループに対する個人の関わり方について考える。

◎グループ構成

5人程度

- ①グループをつくる。（あえて学校等での活動班とは別の偶発的なグループをつくってみるのも効果的です。）
- ②指導者がルールを説明し、課題を提示する。
- ③地図の見方など活動に必要な最低限の説明と安全面の注意をする。

- ④各グループで短時間の話し合いをする。
- ⑤時間を5分程度空けてスタートを切る。
- ⑥全員がゴールをする。
- ⑦「ふりかえり」をする。

(6) 「ふりかえり」について

- ◎活動後、グループごとに各自感想を出し合い、自分自身がグループにどう関わったかなどについて「ふりかえり」をします。
- ◎取り組みの「結果」だけに視点を向けず、活動の「過程」（プロセス）に焦点が当たるようにアドバイスすると良いでしょう。
- ◎学校や日常の生活と対比させながら考えることができれば、なお良いです。

「利用のてびき」、「健康安全対策」「野外活動のフィールドマナー」も参考にしてください。